

女性のがん検診

山口 医院 院長
山口 進 久 先生

近年、女性の職場進出が進みいろいろな分野で活躍しており、妊娠中または出産後も働き続ける女性が増加しています。妊娠出産は病気ではなく生理的な現象と捉えることができますが、女性にとっては極めて重大なイベントであり、母体にとって大きな負担であることは明らかなです。妊娠出産を機会に仕事を辞める女性がまだまだ多く、また企業内の母性健康管理の現状をみると、制度が十分整っていない妊娠中の女性労働者は心身共につらい思いをしているという現状があります。一人一人の女性労働者の状況に応じた的確な母性健康管理システムの推進を望みます。

女性にとって妊娠出産の他に、特に子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がんなど女性特有のがんに対する検診も重要な問題です。国立がん研究センターの統計では、昨年の女性の予測がん罹患数は全がん 42 万 1800 のうち乳がんが 8 万 9400 でトップ、5 位に子宮頸がん 3 万、12 位は卵巣がん 1 万 400 となっています。各市町村で行っている婦人科的検診は子宮頸がんや乳がんで、子宮体がん、卵巣がんの検査は個人的に行うこととなっています。

平成 26 年度より子宮頸がん検査は精度の高い検査法になり異常発見率も向上しており、早期発見も期待されています。太田市の検診率は現在、40 代の約 60%に対し、40 代を除く 20~70 代は 20~30%にとどまっています。子宮頸がんワクチンについても副作用の問題で積極的推奨は控えています。ぜひ毎年 5 月~11 月末までの期間に市の検診を受けましょう。

次に乳がん検診ですが、28 年度よりマンモグラフィー単独検診となり視触診のみの検診は廃止となります。しかし触診は大切なことですので自己検査は月 1 回行ってください。

最後に乳がんは 1. 年齢が 40 歳以上 2. 30 歳以上で未婚 3. 初産年齢が 30 歳以上 4. 閉経年齢 55 歳以上 5. 高蛋白高脂質による肥満 6. 良性乳腺疾患の既往 7. 乳がんの既往 (対側乳房) 8. 乳がんの家族歴などがある場合に高危険率ですので、定期的検査と自己検査が必要です。各医療機関は精密検査医療機関病院との連携を取っていますので、早期発見のために受診するよう希望します。